



山口県本部版
 NO 271
 治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟
 山口県本部
 〒754-0004
 山口市小郡金堀町
 21番の1
 林洋武方
 電話&FAX
 083 (972) 3987

3・15市川正一碑前祭 (光市光井鮎返り)

碑建立49周年に県下から40名余が参加。
 総選挙での野党共闘の勝利・新政権樹立への決意
 を固めあいました。

◆後半国会の焦点

「高齢者医療費二倍化法案」「病床削減推進法案」
 消費税5%への減税要求とともに国民のいのちとくらしを守る戦いへ

◆映画伊藤千代子制作資金運動は全国の国賠同盟に拡大。山口県でも近々、実行委員会結成に向けて呼びかけを始めます。

◆田中サガヨ没後86周年墓参

5月8日(土) 11時から下関市豊田町正念寺で

同盟下関支部と県本部共催

◆長門市議選、阿武町議補選(いずれも4月18日投票)で共産党候補各1名が奮闘中

◆今年の国会請願は5月12日(水)に決まりました。

◆国賠同盟の署名到達は3月31日現在

個人561筆 団体55筆です。

同盟山口県本部 2021年度総会

4月25日(日) 午後1時30分より

日本共産党山口県委員会2階会議室で開会

◎今年には記念講演はありません

三・十五

市川正一碑前祭

「反動潮流の源泉、戦後の特高官僚」について、大田智美事務局長が報告

3月15日、市川正一さんの命日に毎年碑前祭が開催されています。今年は40名の参加で開催され、衆議院中国ブロック比例代表候補のすみより聡美さんらがあいさつ。「命をかけて戦争反対を貫いた市川正一さんの志を受けつぎ野党共闘と共に政権交代を」と強調されていました。以下は、大田事務局長の報告を掲載します。

なぜいま、「特高」を追及するのか

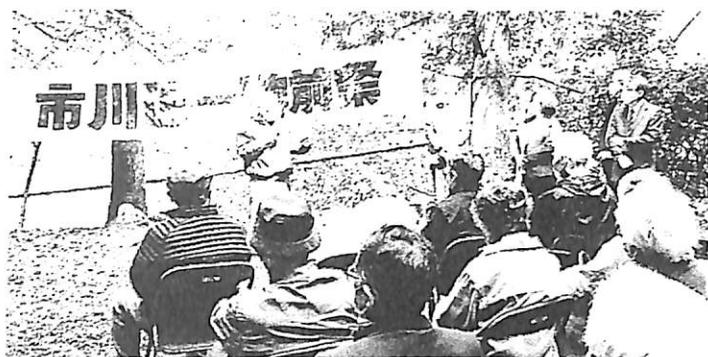
本日は「反動潮流の源泉、戦後の特高官僚」（国賠同盟中央本



市川正一碑へ献花する参加者

小林多喜二虐殺に直接手を下した中川成夫は当時特高係長でしたが、その後、巡査部長、警部補、警部に昇格、警視にも抜擢され、1936年には共産党潰滅の功労者として天皇から銀杯をもらい表彰されています。戦後1968年には東京北区の教育委員長になっています。中川といっしょに暴行に加わった毛利基は係長から特高課長になりさらに、佐賀県、岐阜県、埼玉県の警察部長となりました。

部前会長執筆、同名の著作を参考にした)について述べます。特高、特別高等警察は、治安維持法を武器に、小林多喜二を殺し、市川正一を獄死させました。名前が分かっているだけでも、93名が留置場で殺され460名が獄死させられています。治安維持法が廃止されて今年で76年



参加者の前で報告する大田事務局長

になりませんが、なぜ今も特高を追及するのか、ひとつは特高官僚たちの権力犯罪について歴史的・道義的責任を追及するためです。人道に反する犯罪に時効はありません。1968年国連で採択された「戦争犯罪と人道に反する罪に対する時効不適用に関する条約」です。日本は条約採択時棄権し今日に至るも批准を拒否し続けております。しかし、核兵器禁止条約と同じで国際法として有効であり、適用を逃れることは出来ません。

今日の、反動政策へのかわりが続くこと

特高官僚を追及し続ける理由の二つ目は、戦後今日に至るまで日本の反動政策に深く関わってきたことです。特高警察は1945年廃止され、表向き特高警察官は罷免されたとされています。下級の警察官2,000

名余は確かに罷免されたのですが、本省の課長や各府県の警察部長51名、特高課長・外事課長級55名、警部168名、警部補1,000名など官僚は一時休職扱いですぐに復帰しました。

日本の民主化への逆行は許さない

当時の政府がなんとしても天皇制を残し、治安維持法体制を続けようと必死で抵抗したこと、アメリカの対日政策が急転換し、憲法変える、軍隊つくれと日本の民主化へ逆行が起こったためです。そのすきに特高官僚は国会議員となり、国家公安委員、警察庁長官、警視總監、防衛事務次官、自治・文部・厚生事務次官、公安調査庁長官。さらに、県知事、副知事、市長、助役、教育長など国家機関や地方自治体要職につきましました。

総選挙で、野党共闘の勝利を必ず！

特高官僚は死亡してしまいましたが、その魂は子どもや信者に引き継がれ、今日も日本の政治の反動化に深くかかわっています。彼らを亡き者にすることは出来ませんが、総選挙があります。野党共闘の勝利を目指して共に頑張りましょう。

民主運動の監視強化も

二人を指揮した額綱弥三は、当時特高課長で内務大臣から表彰を受けました。戦後、警察島を歩いたのち、1955年から衆議院議員を11年勤め、その後文部政務次官にもなり国の文部行政に口を突っ込んでいます。日本共産党弾圧に功ありとして特別に勲五等に叙せられ双光旭日章をもらい、勲二等瑞宝章までもらったのです。

山口県出身者でもっとも有名なのは高村坂彦親子です。父、高村坂彦は大阪府警察局長も務めた特高官僚で戦後衆議院議員になりました。1927年内務省警保局に配属され、1929年から鳥取県、香川県、新潟県の特高課長となりとくに農民運動弾圧にらつ腕をふるい警保局事務官、警察講習所教授を経て、1940年に第二次近衛内閣で

戦後の特高官僚

「戦後の特高官僚」の表紙

市川正一：宇部市生まれ、本籍は光市

1929年4月、治安維持法違反で特別高等警察に逮捕される。約2ヶ月にわたる拷問にも屈せず、公判では代表陳述として支配階級を徹底的に糾弾し、日本共産党の党史について述べ「党と人民の正義の事業が必ず勝利するだろう」と主張した。獄中の非人間的な待遇のために栄養失調となり、歯を失ってほとんど食事もできない状態になるが、闘志をもって侵略戦争に反対し、断固としてたたかいつづけた。敗戦の半年前の1945年3月15日、ついに、宮城刑務所で衰弱死。53歳だった。

最後の4・16被告

治安維持法犠牲者 田熊真澄さんに聞く

故田熊真澄さん



2000年の県本部総会（前列中央が田熊さん）

山口県出身の故田熊真澄さんは、一九二八年三月と翌年四月の、治安維持法違反による日本共産党等の全国いっせい検挙で逮捕されました。まだ二十歳でした。拷問にも屈せず、最後まで戦争反対の意志を貫き通しました。

当時の被告が亡くなつていく中、事実上、最後の証人となつた田熊さんに二〇〇一年、聞き取った証言記録を再録します。（聞き手は国賠同盟山口県本部の林洋武会長と大田智美事務局長）

田熊真澄さんの経歴

明治四一年（一九〇八年）二月一九日生
大正一二年（一九二三年）塩田尋常小学校高等科を卒業。同年山口師範を受験。学科試験は合格したが、体格検査ではねられる。背丈が低いという理由。（師範学校の体格検査は軍隊でいう甲種合格と同じ基準だった）周東実用中学校に入学（現柳井学園の前身）。
大正一四年（一九二五年）東京・上野にあった岩倉鉄道学校本科へ転入。
昭和二年五月 目黒蒲田電鉄へ就職（車掌見習）
昭和三年（一九二八年）東京市電自治会目蒲支部青年部員として二回争議に参加。
昭和四年（一九二九年）四月二十日
警視庁の特高数名が下宿に来て逮捕された。支部再建の応援に来ていたオルグ立石虎記が四・一六弾圧で逮捕され、彼のメモが押収されそれがもとに逮捕された。
昭和六年（一九三一年）五月保釈。山口県に帰郷。二年遅れで徴兵検査、丙種。父の農業を手伝い、坑木切りの仕事などに従事。
昭和七年（一九三二年）春 大谷みつよ氏の要請で上京して、赤色救援会活動に参加。三・一五、四・一六統一公判闘争に参加。最初次回欠席したのを除いて獄外被告としてほとんどの公判に出席。
昭和七年夏 文化聯盟の弾圧に関連して再逮捕。保釈取り消し。
昭和七年十月二十九日 懲役三年未決一五〇日通算の判決。懲役三年以下のものは控訴せず下獄する方針に従つて下獄。

昭和七年十二月 山口刑務所に押送。
昭和九年（一九三四年）出獄にさいして教戒師の大東亜共栄圏問題について反論。反戦の誓いを明確にした。
昭和九年以後 父の農業の手伝い。隣村の田布施の畑を三反借りて野菜作りに取り組む。
昭和十八年（一九四三年）十二月 三七歳、国民兵として応召。下関市の火の山高射砲部隊に配属
昭和二十年（一九四五年）八月十五日 下関市彦島の山頂の高射砲陣地で終戦を迎える。

戦後

昭和二十一年 農民組合の結成
昭和二十一年十二月 第一次農地委員（自作農代表として）選出。農業委員二期、農業委員会長一期。
昭和二十二年四月 大和村会議員当選二期
昭和二十六年四月 再度立候補するも落選以後、寺の総代十五年、中学校PTA会長など歴任。
平成元年（一九八九年） 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟二十一回大会（大阪市立労働会館）に参加。
同年（一九八九年）十一月五日 国賠同盟山口県本部を組織。同会長に。
平成七年（一九九五年）四月 日本共産党入党
平成十二年（二〇〇〇年）八月 国賠同盟の第四回国連要請ツアー団長としてジュネーブを訪問。
平成二十年（二〇〇八年）二月一日死去
九十九才。